



分科会 5 セルフメディケーションと薬剤師の役割

10月7日(日) 13:30～16:00 第6会場(アクトシティ浜松 研修交流センター 2F 音楽工房ホール)

W-05-03

来局者への情報提供と相談販売の重要性

さのともやす
佐野 友保
神奈川県薬剤師会

セルフメディケーションとは、自分自身で健康を管理し、或いは疾病を治療する事、即ち自分自身の健康に責任を持ち、軽度な自身の不調は自分で手当てする事です。今、国が国民に向かって推進しているセルフメディケーションの期待すべき効果は、日本における将来の人口推計は、2020年以降に高齢者人口比率が30%、その後2050年には40%に達し、それに伴う医療費は2025年に69兆円に達すると予測されています。また今の国家予算においての借財が1000兆円超、どこまで赤字国債を発行すればよいのかという中で、社会保障の改善は緊急を要しています。また、セルフメディケーションの推進は日本薬剤師会の薬剤師網領の実践である事と強く感じています。私たちが大学に入り薬剤師を目指した時は、医薬分業が行われるだろうと大学でも、仲間でも話題にもなりません。卒業生の多くは薬局に就職し、それは薬屋の親父になる事でした。もちろん中には、病院薬剤師や大学に残って後進の指導者、保健行政、或るメーカーのMRになった者もいましたが、保険調剤を行う事は、国や日本薬剤師会も、医薬分業を理想としながらも、昭和36年国民皆保険の導入時でも「山」は動きませんでした。そのような状況の中、私は昭和45年に卒業し、薬剤師となり家業の薬屋を継ぎました。私の薬局は祖父が明治38年(1905年)に創業し神奈川県の西部にあります。神奈川県と言うと、全国的に知られた横浜、鎌倉、川崎、箱根、小田原ですが、私の町は日本百名山の丹沢山の麓の田舎町で、当時は人口57000人足らず、昔からたばこ耕作の町ですから、農家の方が多く、当時は病気になれば、医者にかかるより薬局に相談し薬を買う方が比較的多かったのです。すでにその頃から「かかりつけ薬局」として信頼される努力をしており、祖父や父は病気に休みはないとの信念から店は年中無休でした。また、それは一人の患者を医師と競合するという事を意味し、大衆薬を勧める事は、単なる物を売る事と異なっていました。お客さん(患者)が来客(来局)する事とは、身体の不調を感じてやってくる訳ですから、問診を通じ、不調の原因が何であるかを患者に説明し適切な薬を選択して、薬がどのように作用し、効果があるのかを患者に理解して頂く必要があります。そして何よりも、病気の原因をつくった生活を改善する事を促す事が重要となり、薬の効果を高める養生について、きちんとアドバイスをします。それは食事療法から始まり、運動・睡眠・排便、そしてストレスを解消するための原因の改善を促します。当時(1960年代)、都会では薬が物として乱売されていました。その結果とは言いませんが、ピリン系、キノホルムによる薬害が起り、無資格販売者の手によって雑貨同様に売られた時期でもありました。当時の厚生省は大きな社会問題として、大衆薬の安全性を重視し、店頭から危険リスクの高い薬を医師の指示なくして販売が出来ないようにしたのです。その頃から、大衆薬の販売方法がより一層変化しました。薬の安全性が担保される事による安売りです。毎日、新聞のチラシに薬のディスカウントが掲載され、メーカーの薬は安売りの目玉とされました。幸いに、私は田舎町でしたので、むしろどこふく風であり、薬は安易に売るものではなく、お客さんの症状をしっかり聞き、信頼されるように努めていました。お国が進めている、セルフメディケーションを推進するのは薬剤師ですが、保険薬は処方箋報酬の中で適切な情報提供が担保されています。しかし、一方で大衆薬やサプリメントと併用している患者が大変多いと思います。薬科大学の6年制が始まり実務実習が始まりましたが、主は調剤実習がメインで、大衆薬に使われる講習の時間は大変少なく成っています。今、私が大変危惧するところは、その程度ではとても大衆薬の担い手にならないという事です。実習生に将来の希望を聞くと、病院薬剤師、調剤薬局の薬剤師を希望し、一般薬局にて直接患者に対応し、自ら選択し、薬によって患者の病気が治ったという喜びと、患者から感謝される事が直接得られる薬屋の親父がいなくなる事が残念でなりません。このままで行くと、若い薬剤師は処方薬に目がいき、大衆薬には見向きもしません。今後リスク分類によって、第一分類以外はどこまでも薬剤師の手から放たれていく事でしょう。実は、セルフメディケーション推進は薬剤師に警鐘しているのです。セルフメディケーション事業は薬剤師の職能を高めると共に、人の生命健康に関わる事に深く思いを致す事となるのです。単に医療費の削減ではなく、薬剤師が薬を正しく服用する事を国民に指導する事こそ、長寿社会を楽しく一生を過ごす「達者で長生きする」為に与えられた職業としての薬剤師に誇りを持ち続けたいと思います。